

【抄 録】 『アルプス歯科の総義歯製作技法 1』

日技認定講師
(東京都歯科技工士会)

中込 敏夫

良い総義歯製作のため、歯科技工士には次の2点が重要な要素となる。

1. 製作をするための基準と基礎知識
2. 製作をするための感性と技術力

1 に関しては、歯科医師が歯科技工士に提供するべき「情報」であり、それを理解し、さらに「観察・診断」するための能力ということになる。すなわちこれは文字情報のような「説明し伝えることのできる」ものであるといえる。

2 に関しては、1 を基礎として実際に形を作り出す能力であり、ここに意匠が存在することになる。しかしこれは、文字情報のように説明できるようなものではなく、いわば「表す」ものであるといえる。

伝えることができても表すことができなければ意味をなさず、表すことができてもそこに根拠が無ければ著しく価値を失う。つまりこの2つの要素は両輪の輪であり、どちらが欠けても「良い総義歯」を作ることはできないということになる。

本講演では、「伝える」ことと「表す」ことを具体的に提示し、その結果により作り出された「総義歯」を示したいと思う。

【抄 録】 『アルプス歯科の総義歯製作技法 2』

日技認定講師
(東京都歯科技工士会)

中込 敏夫

ここでは、歯科技工士が総義歯製作を製作する上で、決して欠かすことのできない術式

1. 人工歯排列
2. 歯肉形成
3. 重合操作

について、デモンストレーションを交え解説する。

また、総義歯の審美性を高めるため行う、「デンチャーカラーリング」についてもデモを含め解説をする。